縄文女子の妄想トーク

道具・アクセサリー編

今回の妄想トークのメンバーは…

20年前に縄文に出会って以来、特に北海道の縄文遺跡や遺物のPR活動に力を注ぐ縄文沼の女神様

縄文と蛙をこよなく愛する縄文女子
オリジナル縄文グッズの販売やイベント主催などで大活躍

有名な縄文遺跡の近くに住む生粋の縄文クリエーター
専門知識も話題も豊富で頼れる存在

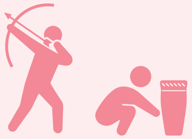
北海道エリアの遺物に興味津々　かわいいグッズにできそうなあたらしい推し土偶を常に探している

今回のテーマは縄文人の「手しごと」。
土器や土偶とくらべると、道具やアクセサリーってちょっと地味なイメージ？

まさか！全然そんなことないない！！
今はなんでも機械で大量生産できるけど、縄文人は、自然の中で暮らしていくために、どうやって道具を考えて作りあげていったのか…、展示されている遺物から形や使い方を推理したりするのが妄想上級者の楽しみ方よ！

なにもないところから必要な道具を作りだすには、いろんな試行錯誤があったと思うけど、縄文時代の早い時期からいろいろな道具が誕生していたらしいじゃない。縄文人ってすごい発明家なのね。

確か縄文人の２大発明は「弓矢」と「土器」って言われてるのよね。弓矢なんて誰が最初に考えたのかしら。弓の部分には強くて弾力性がある枝を使ったり、弦は植物の繊維を撚るところから全部手作りだし、矢の部分だって、鳥の羽をつけて何本も作らないといけないし、すっごく大変そう！放った矢は全部回収できるわけじゃないしねぇ。



矢の先端についていた「鏃（やじり）」は、たくさん出土してるから博物館では必ず展示してるけど、函館市縄文文化交流センターの展示の仕方は特に素敵なの！黒曜石やいろんな石の鏃が美しく並んでいてまさにアート。あれは映えるわ！※01

あの展示を見てなにがすごいって、みんな同じような形・大きさで美しく「規格をそろえて」作られているってこと。手作業でよ？どんな技術力なの縄文人！絶対にマニュアルがあるとか（ないけど）、すごい師匠がいて弟子に伝授するとか、同じ規格で作るための仕組みがあったはず。

漁に使う「釣り針」も地味にすごくない？ちゃんと「かえし」がついていて、簡単に針が抜けないようになっているの。これ現代の釣り針も仕組みは同じだって、釣り好きの人がビックリしてた！

釣り針に模様が入っているものもあるらしいじゃない！針によ！こだわりが過ぎる。

えーっ！そんな手の込んだ針、魚に持っていかれたら相当ヘコむわ…。

縄文人が大切にしていたのは、効率よりも美しさ。獲物は「捕る」というより「神様からいただく」という気持ちがあるから、神様に気に入ってもらえるように、それはそれは丁寧につくるらしいの。

おいしくいただいた後は、貝塚で神様にお返しするのね。

網を使った漁もしていたのよね。網を押さえるためのおもり「石錘（せきすい）」は、漁以外にも色々使われていたみたい。
住居跡の床面から石錘がたくさん出土している、通称「セキスイハウス」が垣ノ島遺跡にあるらしいわよ（笑）。

なにそれ〜！（笑）

山に入るときはおしゃれな縄文ポシェット！この肩にかけられる網カゴには、クルミが入っていたそうね。※02

ポシェットや背負うタイプのかごは、両手があくから機能的よね。当時は危険もいっぱいだったしね。編み方もいろいろあって、現代でも使われている編み方のほどんどが縄文時代にすでに完成されていたらしいわね。※03

女性は長い髪を編むのが好きじゃない？黒柳徹子さんの髪の中には飴ちゃんが入っているって言うけど、※04 縄文人も編んでまとめた髪の中にどんぐり入れてたとか！

どんぐり入れてたかどうかはともかく（笑）、髪を編むっていう発想から、植物を編んでカゴが生まれたかもってこと？それはおもしろい！

そろそろアクセサリーに行きましょ！
縄文人がおしゃれだったって言われるのは、ヒスイとかの綺麗な石や骨、貝なんかでできたアクセサリーがたくさん出土してるからでしょ？これ、いつ身につけてたと思う？一般的には祭祀の時みたいな「ハレの日」につけていたんじゃないかって言われているけど。

私は、石のネックレスや漆の櫛はハレの日に。普段は、その辺に生えてる花や草を編んで腕や足に巻いたり髪飾りにしたりして、気軽におしゃれを楽しんでいたんじゃないかなと思うんだけど。

普段はそれぞれ作業の邪魔にならない場所につけていたんじゃない？狩りをするときに音が鳴るものとか匂いがするものはつけられないだろうし。土器づくりの人は、腕輪はしない、木の実を拾いに行く人は、ナイフを首からぶら下げるからネックレスはしないとか・・

確かに。そういえば指輪ってあまり出てこないわよね。指につけてるとじゃまなのかしら。

そうかもー。そもそもアクセサリーって誰が何のために作ったの？自分用？集落用？男性が作って意中の女性に贈ったとか？

男性からのプレゼントだったら、いろんな意味で「重」くてちょっと引くかも…。石や貝のネックレスとかだと「これ、一体何年かけて作った訳…」って感じで、受け取るの躊躇しちゃいそう…。

石に穴をあける作業って大変だもの、さすがにみんなで分業してたんじゃない？
集落の大人達が穴をあけた石を持ち寄ってネックレスをつくって、新成人にプレゼントするとか。当時は子供の死亡率も高かったし、立派な大人になるのはとても喜ばしいことだったんじゃないかしら。

そっちのほうがなんか平和でいい！

石や土でできた耳飾りは、ピアスの穴に成長するごとに徐々に大きいのを付けていっていたらしいわね。だんだんエスカレートして、ちょっとありえない大きさの耳飾りもでてるけど、これって大きい方がモテるとか、そういうのあるのかしら？

縄文人の「モテ」については、いつかじっくりテーマにしましょう！

キャー！お待ちかねの恋バナね！！！

まぁまぁ落ち着いて…（笑）
いやーそれにしても、縄文人の「手しごと」、なかなか深かった。

黒曜石やアオトラ石みたいに、他の地域でも人気が高い優れた原材料が北海道から産出されているのもちょっと嬉しい！縄文時代から「北海道ブランド」ってあったのね。

今までさらっと通り過ぎてたから、改めて道具やアクセサリーをじっくり見たくなっちゃった。

よし、次こそホントに女子旅よ！

もー、待ちきれない！早く行きましょ！！

（つづく）

※01：最近は各施設で石鏃の展示方法も素敵なところが多いですが、函館市縄文文化交流センターは 2011 年のオープン時から、美しく並べられた石鏃の展示がカッコいいと評判。p1 写真参照　※02：青森県三内丸山遺跡で出土した、ヒノキ科の樹皮を編んで作られた肩からさげられるようになっている小さなかご。植物性の製品は時間とともに分解されて遺物としてなかなか残らないのでとても貴重。p2 写真参照　※03：縄文時代の編み物：ちなみに※02 の縄文ポシェットは「網代編み（あじろあみ）」という方法で編まれているそう。　※04：黒柳徹子さんの髪の毛の中には、心の清らかな子にあげるために飴ちゃんが入っているらしい。おせんべいやどら焼きが入っていることもあるらしい。海外に行く時はパスポートや大事な書類を髪の毛の中に入れることもあるという。参照：Wikipedia

★【縄文女子の妄想トーク】は、縄文をこよなく愛する縄文女子たちの個人の主観に基づく妄想トークがメインになっています。学術的に正しいかどうかは置いておいて、素人目線の「こうだったのかな」「こうだったらいいな」という妄想ワールドを、どうか生暖かい目で楽しんでいただけたら嬉しいです。